

昭和学報

昭和女子大学
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂
03(3411)5111
編集発行人 猪熊雄治

いみのはあく

心理学科長 山崎洋史

五月連休明けの頃、卒業生から、新社会人生活の連絡をもらう度に、うれしさと、ささやかな感動を覚える。自分は、なぜ、そこで、うれしいと感じるのか？感動するの？その「意味」は？

三〇年ほど前、学校教育の場に飛び込んだ。教育心理学を学び、最初に得た仕事が小学校教諭であった。当時、教科教育実践が教育研究上の主流であったが、東京下町の小学校は、教育以前の課題に埋まっていた。暴力、貧困、ドラッグ、不登校、学級崩壊、無気力サラリーマン教師群……。教育の「意味」の問いかけ、授業以前の「こころ」への支援。教育心理学的枠組みだけでは指導が成立しない現実、ショックを受け、臨床心理学の必要性を確信し、大学院に進むことにした。結局、公立学校教諭として教育に励んだのは一年ほどであったが、私にとって貴重な体験だった。教室で、真剣な毎回の講義・授業の積み重ね、教師の努力が



レース先頭スピン帆走する我が愛艇

そのまま学生の成長力にリンクしていく。二〇年ほど前、消防大で部下教育「教育技法」講演の依頼があった。二五〇人余りの部屋で、一日六時間の授業、微動もせず、常に傾聴・質問する。その積極的授業参加姿勢から、アメリカにおけるギフトドスクール教育の基本である「話が聴けること」を思い出した。情報収集に始まる科学的思考の初期段階「話を聴くこと」のできない

大学生の多さに閉口していた自分にとって、うれしい発見であった。「消防一家」という言葉がある。全国の消防官は、同じ意志で様々なことが共有できる。つまり北海道から沖縄まで、仕事の「意味」の理解、健康な「熱い思い」と、それに伴う「行動」がある。以前「大災害が起きたとき、職務を遂行するのか、家族を守るのか？」と、質問したことがある。日本全県で、迷い無く、職務遂行を優先するとの答が返ってきた。今回の東日本大震災でも、その言葉どおり、自身や家族の安全よりも、被災者救援を実行している。私は、一市民として、ここから感謝の意を表明せずにはいられない。学ぶ目的、教育の「意味」の把握がこの素晴らしい「行動」を生んでいる。現在、私は、消防大校客員教授として、消防関係で講演を行っているが、彼らを見ると日本はまだ大丈夫であると確信できる。

三〇年ほど前、オリンピック日本代表選手(ヨット)強化のため、医事科生を委員を委嘱された。ロンドンやその次のオリンピックへ向けての心理教育支援がその仕事。前回の北京オリンピックで、日本選手の実力は十分に高くて、現地事前練習時から、各国の審判団や選手団が仕掛けてくる心理戦プレッシャーなどに影響され、戦う前から気持ちで負けていたそうだな。なぜオリンピックに行くのか、なぜ競うのか。各国でその「意味」は異なる。目的が優勝なのか、参加することなのかでは、最初から「こころのポテンシャル」は異なる。

ヨットは、私の学生時代からの趣味の一つ。生まれ育った横浜の市民ヨットハーバーでは、レースは年六回行われ、三年連続年間優勝を達成した。レースの勝敗には、技術に加え、メンタルな要素が大きくかわる。クルーは言われるままに行動するのだが、勝利への「ゴールセティング」と、「意味」がメンバー全員に共有されていなければならぬ。レースに参加する「意味」の把握が、集中力・行動選択に大きく影響し、結果に直結することを実感した。

昭和女子大学で、私は卒業生・修了生を七回送り出している。学生・院生達は、その後、素晴らしいキャリアを積み重ねているが、その中から教師は七人誕生し、うち一人は研究者として、国立大学の常勤教員に就職した。今後、彼・彼女等が、私同様多くの卒業生を送り出していくことを思うと、教師の仕事の「意味」が分かってくる。

学生の成長、社会での活躍は、教育に対する最高のコンプリメントである、だからうれしい、そして、感動を覚えるのだ。(やまさき ひろふみ)

今月の昭和学報は

創立九一周年記念式典(奨学金)……………(2)

留学生交流会・学生選書ツアー……………(3)

先生の研究室訪問・学科紹介……………(4)

善行表彰



表彰状を手に晴れやかな笑顔で(左から浅川さん・近藤さん、村中さん)

四月三〇日(土)の創立九一周年記念式典で、学生三名と教員一名が善行者として表彰された。善行表彰は平成一六年より「世の光となるう」という建学の精神を實踐した人物に對して贈られている。初等教育学科の浅川南さんと近藤未来さんは、昨年八月川崎市の交差点で高齢

の女性が自転車で転倒したところに居合わせ、救急車を手配し、介抱にあたるなど迅速に事故対応を行った。文化創造学科の村中詩季さんは、昨年一〇月登校途中渋谷駅で転倒した男性を介抱し、積極的に救護活動を行った。志賀清悟生活科学部教授は、東日本大震災に際し医師として早くから被災地で医療救援活動に従事した。こうした思いやりあふれる行為を称える拍手が記念講堂に響き渡った。

春季アメリカ教育研修に参加してアクティビティで子どもとの距離が縮まった

今回の私たちの研修は、東日本大震災の影響で予定より四日遅れての出発となった。この研修で最も印象に残っているのは、五日間の学校参観実習である。参加者一人ひとり異なる保育園・小学校に配

属され、授業参観の他、出発の五か月前から練習をしてきた自己紹介とアクティビティを行った。初日は、言葉の壁にぶつかり、自分の気持ちをうまく表現することが出来ずもどかしかった。しかし、忍者やひな祭り等を紹介しながら、子どもたちと一緒に遊ぶアクティビティを通して、子どもとの距離はぐんと近くなった。それまではあいさつ程度しかコミュニケーションがとれていなかった子どもが声をかけてきてくれ、一緒に遊ぶことが出来るようになった。参



~研修DATA~

■期間：3/16(水)~3/28(月) 13日間

■参加者：初等教育学科 7名

■事前研修：自己紹介、アクティビティの練習(プリティッシュクールでも2回練習を実施)

■内容：現地保育園・小学校等での参観実習(5日間)、講義(アメリカの教育制度等)、子ども博物館等訪問、現地家庭訪問、NYトリップ

参加メンバー一同

創立九一周年記念式典



平尾光司理事長より学生一人ひとりに奨学金が贈呈された

四月三〇日(土) 午前一〇時五〇分より、創立者記念講堂で創立九一周年記念式典が行われた。

初等教育学科の学生が演奏するトッカード二短調のオルガンの調べが講堂に響くなか、「光の躍動」とともに式典がはじまった。開式が告げられると、まず、東日本大震災による犠牲者へ黙とうが捧げられた。恒例の中高部五年生二二〇名による賛歌「新しき日」の合唱が式典に彩りを添えた。

平尾光司理事長の式辞、役員等紹介に続いて、人見楳子名誉理事長からスライドを使った学園の紹介が行われた。最後に、善行表彰が四名に(一面に関連記事)、人見記念奨学金が三五名に、成績優秀者奨学金が一五八名に、砂原育英基金が一名に授与された。

人見記念奨学生

【大学院】 英米文学専攻 博士後期課程 村松 理恵	生活機構学専攻 醍醐 身奈	【学部】 日本語日本文学科 矢田 真菜 細井 喜恵 湯本 恵	英語コミュニケーション学科 藤田 佳奈 小島 瞳
歴史文化学科 丸山 奈緒子 尾籠 香菜子 高山 直美	国際学科 岸山 さつき 宮坂 あずさ	心理学科 佐川 祥子 垣内 梓乃 廣瀬 文乃	福祉社会学科 市橋 萌 村田 絵梨子
福祉環境学科 青木 愛実	現代教養学科 山口 莉永 宮田 莉奈 本間 亜里沙	初等教育学科 油井 美里 嶺岸 桃里 前野 彩香	環境デザイン学科 佐々木 由香 山本 さき 伊藤 美緒

成績優秀者奨学生

健康デザイン学科 甲野 花 佐藤 佑紀	管理栄養学科 井上 明日美 石原 真依	生活科学科食物健康学専攻 間野 琴子	生活科学科管理栄養士専攻 原 百合恵	【短期大学部】 文化創造学科 田中 知佳	【大学院】 英米文学専攻 博士後期課程 村松 理恵	生活文化研究専攻 萩原 さゆり	環境デザイン研究専攻 土屋 尚子	生活機構学専攻 醍醐 身奈	【学部】 日本語日本文学科 矢田 真菜 松崎 愛美 内山 夏希 村山 恵里子 清水 歌歩 清井 麻衣 細野 遥
---------------------------	---------------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------------	---------------------------------	--------------------	---------------------	------------------	---

井上 絵梨 大須賀 彩葵 新井 夏紀 村井 沙樹子 湯本 喜恵 大野 由希子 鈴木 奈海 金 恩永	藤田 瞳 中本 里菜 伊藤 有未 小泉 文香 門脇 真緒 志摩 愛莉 富樫 美優奈 渡邊 みずき 小島 佳奈 小杉 真喜 榎田 はるな 横田 優衣 千葉 圭奈 谷田 圭奈 若松 愛奈 木下 恵里 石原 麻乃 石井 美帆 篠崎 なるみ 森辺 麻梓 渡辺 礼美 鎌田 啓子 鈴木 啓子	丸山 奈緒子 小林 結美 島田 絵梨 高田 夏帆 尾籠 香菜子 石澤 文音 齋藤 史織 大塚 仁美 佐塚 直美 高山 直美 大澤 綾乃 小林 明日香 新井 愛夏	山口 あず紗 岸山 さつき 北島 瑠璃子 佐藤 映里 宮坂 あずさ 林 愛弓	佐川 祥子 笠松 美玖 山本 晃可 八ツ井 奈 垣内 有梓 西川 美紀 叶野 美友 福島 明子 三澤 真実 田中 美沙 廣瀬 文乃	市橋 萌 森田 彩香 今井 彩香 恩幣 恵理子 村田 絵梨子 波瀬 彩香 大澤 京子 布澤 友香	前田 知美 山崎 唯奈 岡崎 可名永 青木 愛実	山口 莉永 三宅 里沙 林 かおり 大久保 絵美 根本 敦子 宮本 莉奈 與本 悦子 二宮 麻利菜 渡邊 友佳 秋山 愛	本間 亜里沙 神谷 菜央 清野 悠	糸井 佐織 野川 理香 油井 美里 矢島 絢子 嶺岸 桃里 嶋田 彩桃 内田 悠紀 望月 菜央 前野 彩香 太田 美貴 大谷 智子 内藤 智子	環境デザイン学科 佐々木 由香 谷口 世理奈 牛丸 理加 阿諏訪 聡美 雨宮 牧穂 池原 弘奈 奈良 里子 西原 弘子 山本 さき 林 奈津美 佐藤 和喜 井関 麻乃 待山 麻美 菅井 さゆり 竹田 明日美 平岡 知佳子 三澤 希来 櫻井 亜希子 三澤 未来	初等教育学科 川井 理香 糸井 佐織 野川 理香 油井 美里 矢島 絢子 嶺岸 桃里 嶋田 彩桃 内田 悠紀 望月 菜央 前野 彩香 太田 美貴 大谷 智子 内藤 智子	国際学科 山口 あず紗 岸山 さつき 北島 瑠璃子 佐藤 映里 宮坂 あずさ 林 愛弓	生活環境学科 伊藤 美緒 村上 絵梨子 深川 紗希 勝川 真樹 小澤 初美 甲田 野花	健康デザイン学科 甲田 野花
--	--	--	---	---	---	-----------------------------------	---	-------------------------	--	--	---	---	---	-------------------

田村 友里 大岩 倫子 本多 永理奈 佐藤 佑紀 米山 紗由子 川崎 彩香 板津 彩虹	管理栄養学科 井上 明日美 四反田 つばな 越田 あきほ 大山 優花 石原 真依 藤田 安世 大川 陽子	生活科学科食物健康学専攻 間野 琴子 浅野 紀子	生活科学科管理栄養士専攻 原 百合恵 藤田 永香 山田 香	【短期大学部】 文化創造学科 田中 知佳 山本 佳代 松浦 奈津子 小野 寺亜実 山中 沙季	【学部】 国際学科 泉田 浩子
---	---	--------------------------------	--	--	-----------------------



基礎教育研究センターが開設されました



平成23年4月、基礎教育研究センターが開設されました。開設の目的は、同センターの活動を通じて学生の皆さんが大学教育を受けるために必要な基礎学力を身につけ、充実した学生生活を送り、自信をもって社会へ歩み出すことです。基礎学力を身につけることで、より高度な専門知識をスムーズに身につけることが可能になりますし、SPI試験等の対策にもつながります。

場所は大学5号館1階、創立者記念講堂側にある自動ドアを入ってすぐの1M01教室です。

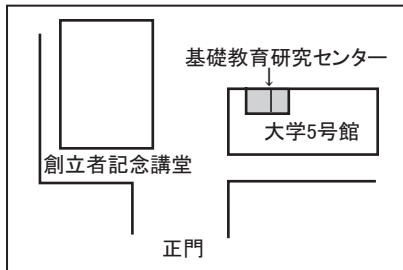
基礎教育研究センターの特徴は、教員が学生を教えるのではなく、大学院生や教師を目指す学部上級生がTeaching Assistant(TA)となり、受講学生へ1対1の個別指導を行うことです。学生同士が教え、学び合うことで、ともに成長できる場となることを想定しています。

同センターを訪ねてみると、TAの学生・受講学生が互いに積極的に、しかも楽しげに学ぶ姿がみられました。

基礎教育研究センターでは、今後も随時、TA学生・受講学生を募集しています。受講およびTAを希望する学生は、基礎教育研究センターの開室時間に直接相談してください。

平成23年度前期 基礎教育研究センター開室時間

- 月 5講時 (16:30~18:00)
- 火 4・5講時 (14:50~18:00)
- 木 4・5講時 (14:50~18:00)
- 金 4・5講時 (14:50~18:00)



学生と質疑応答をする福沢恵子先生

平成二五年三月卒業生対象 第一回就職ガイダンス 五月二一日(水) 於・創立者記念講堂

今年度第一回目となる就職ガイダンスが創立者記念講堂で行われた。あいにくの天候ではあったが、学部三年生と短大一年生、その保護者約二〇名を合わせ八〇名を超える参加があった。保護者の参加

は今年度からの新たな取り組みである。まず増澤史子キャリア支援部長から「少し景気の回復が見えてきたと思つた矢先に震災が起こり、就職状況は厳しいものとなると思われるが、仕事や人生について深く考える好機ととらえ、積極的に取り組んでほしい」と挨拶があった。

続いて、就業力育成事業推進室の福沢恵子先生から「自分らしい生き方仕事とは？」というテーマで講演が行われた。女性と仕事をとりまく状況や、それに伴うワークスタイルの変化、就職活動をはじめの際に知っておくべきこと、心構えにつ

留学生交流会



現在、昭和女子大学には、中国をはじめ、韓国・ベトナム・カンボジア等七カ国から五五名の留学生が学んでいます。

今年度新たに入学した留学生と先輩留学生との交流、日本人学生との交流を深めるために、留学生交流会が、四月一九日(火)大学一号館二階会議室で行われました。

この交流会には、留学生三三名のほか、国際貢献クラブの部員や、坂東眞理子学長、金子朝子副学長他多くの先生方も参加しました。

中国からの留学生が京劇の歌を披露するなど国際的な雰囲気の中、参加者同士が情報交換をしたり、親しく語りあうなど、やかなひと時を過ごしました。

会の最後には、坂東眞理子学長から「日本が震災の影響で不安定なときに、皆さんよく来てくれました。本学は留学生の皆さんが安心して充実した留学生生活を送れるようサポート

します」とお話がありました。(国際協力担当)

第七回学生選書ツアーに参加して

図書館主催の「学生選書ツアー」をご存じだろうか。このツアーは、自分の選んだ本を図書館の予算で買ってもらえるツアーだ。図書館に自分の好きな本を置くことで、単なる図書館ではなく、

自分の感性の広がる新たな空間となる。

参加は、①五月と一〇月の申込期間内に八〇年館二階図書館事務室へ行く②担当司書の方に参加の旨を伝える③申込書に必要な事項を明記して完了。

後日、ツアーオリジナルTシャツを受け取り、一〜三万円の予算内で好きな本を考えておく。買いたい本がすぐに思いつかない場合、ツアー当日に新たな本との出会いに身を任せてみるのも楽しい。

ろん、他の人が自分の選んだ本を借り出したことが分かるとなお嬉しい。また、ツアーに参加した別の人が選んだ本からは、いい刺激を受ける。

こうした楽しみを自らつくっていくことが豊かな学生生活を送る上で大切なのではないかと思う。

環境 河野有紀



本との出会いを楽しもう

ツアー後に図書館で選んだ本が読めるのはもち

新体育館前のユリノキが開花

新体育館竣工から五年目となる今年、入口のユリノキにはじめて花が咲きました。別名の「チューリップツリー」の名の通り、チューリップに似た花が咲いています。



学科紹介

「学芸員資格」 歴史文化学科

日本最古の木造建築物 法隆寺の夢殿



歴史文化学科では、毎年半数以上の学生が学芸員資格の取得を目指します。資格取得のため、1年生の頃から関連の講義を履修しはじめ、様々な実習、研修旅行を通じ学びを深めます。中でも3年生の夏休み期間中の9月に行く、学芸員研修旅行はこの課程の目玉ともいえるべき研修で、学芸員資格の取得を目指す学生には、参加は必須となります。

過去様々な場所で研修を行ってききましたが、近年は奈良・京都に落ち着いています。平成22年度の研修旅行の参加学生は60名あまり。2泊3日にわたり、奈良を起点に京都へ北上しながら、多くの寺院や神社、そして博物館を訪れました。次に参加した感想を紹介します。

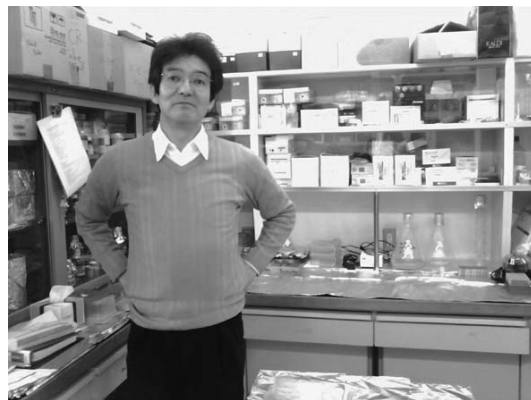
初日は奈良に現地集合し、奈良国立博物館や春日大社、東大寺などをグループごとに自由なルートで見学しました。2日目は、平城遷都1300年で賑わう平城宮跡や唐招提寺、そして世界最古の木造建築で有名な法隆寺などを見学し、3日目からは京都に足を踏み入れました。世界遺産としても有名な高山寺や神護寺、嵐山などを中心に回りました。最終日は、京都市内を自由に見学してから、京都大学総合博物館を見学して解散となりました。

2泊3日の研修旅行中、本当にたくさんの寺院や博物館を回ります。寺院や神社は山の上にあることも多く、長い階段の上り下りや、博物館内で長時間歩きまわることなどが重なり、毎晩宿舎で行われる研修では疲労や睡魔と闘うはめになりました。けれども本物の世界遺産に触れられることはもちろん、現地の美味しい料理や、可愛らしいお土産など、いつもの学校生活では体験できないようなことばかりで、良い経験になったのは間違いありません。学芸員課程終了まであと1年を切りましたが、これからも多くのことを学んでいきたいと思ひます。

学報委員 須山智永

行事予定

- 6月 2日(木) 第3回学内企業説明会(学部4年生・短大2年生対象)
- 6月 3日(金) 大学編入学・短大専攻科学内推薦 合格発表(所属学科)
- 6月 7日(火) 大学院学内推薦 合格発表 (13:00)
- 6月13日(月) 大学院7月期入試 願書受付開始(6/24まで)
- 6月15日(水) 【女教D】新井淑則氏(18:15)
「ノーマライゼーション—共生社会を目指して—」
- 6月16日(木) 【文研6】「三遊亭小遊三/春風亭昇太 落語会」
- 6月18日(土) 第1回オープンキャンパス(13:00~16:00)
【女教E】山崎直子氏(13:10)
「宇宙家族のきずな(仮)」
- 6月21日(火) 【文研7】東京バレエ団「白鳥の湖」(全4幕)
- 6月22日(水) 【文研8】ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団
- 6月23日(木) 第4回学内企業説明会(学部4年生・短大2年生対象)
- 6月25日(土) 保護者懇談会(学部3年生・短大1年生対象)
- 6月29日(水) 【女教F】黒川清氏
「グローバルに通用する人材とは」
緑声舎 寮生との交歓会(18:30)
- 6月30日(木) 大学院・短大 長期履修受付締切



先生の研究室訪問
食べる物はシグナルだ！

管理栄養学科教授

海老沢 秀道 先生

今回は、管理栄養学科の海老沢秀道先生にお話を伺いました。

「食べる物はシグナルだ！」
食べ物の成分は体に色々な情報を伝えることができる。体はその情報に従って動くので、間違った情報は間違った体を作り、正しい情報は正しい体を作る。

先生は子どもの頃から理科好きで、ずっと実験に携わってきたそうです。期せずして大学では栄養学で学ぶことになったのですが、卒業研究がとも面白く、その時に「これだ！ 他のはしつたかない」と考え、栄養系の大学院に進学されました。老化現象を研究する研究所を経て、本学でも栄養学の研究を続

けていらつしやいます。老化の研究の重要性はわかっていても、研究が難しい上、研究者も少ない分野なのだそうです。老化のスピードを遅くすることができると確認されているただひとつのもの、それは食べ物(エネルギー)なのだそうです。「腹八分目」という言葉がありすが、「腹六分目」で飼育したメダカ、ラット、ハエ、そしてサルの寿命は伸びるのだそうです。それがなぜなのかは現在のところまだ分かっていないそうです。肥満になると生活習慣病などになり、寿命を縮めることは誰もが知るところ。「『腹六分目』で食事

をすませる食事制限は、病気の発症を低下させることも分かっています。しかも病気とは関係なしに、老化の進み方も遅くなる。なぜそうなるのかというメカニズムが解明されれば、栄養学の世界は今よりもっと大きく広がる。そういうわけで、毎日栄養学の研究をしている」と海老沢先生。

東日本大震災の影響により東京電力管内では、特に夏季の電力不足が懸念されている。本学もできる限り節電に協力すべく、学園本部事務センターを中心に、いくつもの取り組みを進めている。その一部を紹介する。

- 廊下・トイレなど共用部分の蛍光灯50%間引
- 学生ホール・ソフィアの蛍光灯25%間引と、エアコンの運転台数減
- 図書館・事務室・学科教授室の蛍光灯20%間引
- 研究室の蛍光灯間引
- 未使用時の教室照明・空調のスイッチオフ

今後は、夏季の電力消費増大に備え一層の節電を行うべく、学友会のエコロジー委員会と共同し、学生からの節電アイデアを募ることも検討している。



●●●「手をつなごう」プロジェクト●●●

5月16日(月)、正門から80年館学生ホール付近まで、人と人が手をつないだくさんの写真パネルが飾り付けられた。これは「人と人とのつながりの大切さ いつもなら感じない人の優しさを実感した今、この学校をしっかりと握った手と笑顔でいっぱい」しようで行われたIPYによる学生企画プロジェクト。映っている知り合いの姿を探したり、丁寧に1枚ずつ眺める人の姿があらこちらでみられた。

